

事業報告書

自2022年4月1日
至2023年3月31日

社会福祉法人秋篠茜会

I. 法人の概況	3
II. 評議員の状況（2023年4月1日現在）	4
III. 理事の状況（2023年4月1日現在）	4
IV. 監事の状況（2023年4月1日現在）	4
V. 評議員選任・解任委員会の状況（2023年4月1日現在）	4
VI. 役員並びに評議員等の報酬総額	4
VII. 運営組織（組織図）（2023年4月1日現在）	5
VIII. 業務の適正を確保するための体制等の整備と運用状況	5
1. 情報保存管理体制に関する事項	5
2. 効率性確保体制に関する事項	5
3. 法令遵守体制に関する事項	6
4. 雇用管理、育成・教育体制に関する事項	6
IX. 職員の状況	7
1. 職員の配置状況（2023年4月1日現在）	7
2. 職員採用・雇用管理等の状況	7
3. 職員配置計画の到達状況	8
X. 許認可に関する事項（定款変更および指定変更）	9
XI. 2021年度事業の状況	9
1. 評議員会、理事会に関する事項	9
2. 評議員選任・解任委員会に関する事項	10
3. 2021年会計年度分の監事監査の状況	11
4. 会計に関する専門家の活用状況	11
5. 所轄庁からの報告徴収・検査等への対応状況	11
6. 業務の適正、サービスの確保のための教育・研修実施状況	12
8. 第三者評価、運営推進会議等の開催状況	13
9. 事業の経過と概況	13
10. 社会福祉充実残額および社会福祉充実計画の策定状況	15
11. 社会福祉事業の実施状況	15
12. 公益事業の実施状況	20
13. 地域における公益的な取組・活動等の状況	21

1. 法人の概況

法人の名称	社会福祉法人秋篠茜会
設立年月日	1999年9月28日
許可年月日	1999年9月22日高奈第343号
主たる事務所	奈良市西大寺赤田町一丁目7番1-2号
所管官庁	奈良市総務部法務ガバナンス課、奈良市福祉部（福祉政策課、保護第一・第二課、介護福祉課、長寿福祉課、福祉医療課） 奈良市子ども未来部（保育総務課、保育所・幼稚園課、子育て育成課、子育て相談課）、奈良市保健所
定款の目的	この社会福祉法人（以下「法人」という。）は、多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、心身ともに健やかに育成され、又はその有する能力に応じ自立した日常生活を地域社会において営むことができるよう支援することを目的として、秋篠茜会の理念のもとに次の社会福祉事業を行う。
定款に定める事業内容	社会福祉事業 第一種社会福祉事業 （イ）特別養護老人ホームこがねの里の設置経営 第二種社会福祉事業 （イ）老人デイサービスセンター「こがねの里デイサービスセンター」の設置経営 （ロ）老人短期入所事業（こがねの里） （ハ）あかね保育園の設置経営 （二）老人デイサービスセンター「介護予防サイクルハウス・あこだ」の設置経営 （ホ）小規模多機能型居宅介護「小規模多機能ホーム あかりの家」の設置経営 （ヘ）地域子育て支援拠点事業「奈良市地域子育て支援センター「Peace」」の受託経営 （ト）認知症対応型老人共同生活援助事業「グループホームきたまちテラス」の設置経営 公益事業 （1）居宅介護支援事業 （2）企業委託型保育サービス事業 （3）有料老人ホーム事業 収益事業 （1）不動産貸付業

II. 評議員の状況（2023年4月1日現在）

評議員の定員	7名以上17名以下
評議員の現員	14名

III. 理事の状況（2023年4月1日現在）

理事の定員	6名以上14名以内		
	常勤	非常勤	合計
理事の現員	6人	6人	12人

IV. 監事の状況（2023年4月1日現在）

監事の定員	2名
監事の現員	2名

V. 評議員選任・解任委員会の状況（2023年4月1日現在）

委員の定数	3名
委員の現員	3名（外部委員1名、監事1名、事務局員1名）

VI. 役員並びに評議員等の報酬総額

区分	支給人数	報酬等の総額	適用
評議員	9人	54千円	
理事	11人	31,796千円	職員給与支払額含む
監事	2人	78千円	
報酬等総額	22人	32,006千円	

※報酬等の総額は端数処理により各区分の合計と一致しない。

3. 法令遵守体制に関する事項

法令遵守意識の徹底を図るため定期的に教育を実施しています。新入職員研修・教育では個人情報保護やプライバシー保護に関する事項を継続して研修・教育として実施しています。

年代別研修や各事業所においては、職員の行動規範となる「職員教科書」を学習・研修にとりいれ周知徹底を図っています。

4. 雇用管理、育成・教育体制に関する事項

諸規程などの整備・見直しにより新型コロナウイルス感染禍での雇用維持と感染拡大抑止のための雇用管理の強化に引き続き進めました。同居家族の罹患などに対応するため、「子の看護特別休暇制度」を設け、感染拡大を未然に防ぐための施策を講じました。2023年5月からは、感染症分類が見直しに伴う事業者としての対応は、より一層の課題として次年度も引き続きの課題となっています。

これまで、システム上も分散管理で行っていた雇用・勤怠等管理について、ICTを活用した一元管理を導入しました。2023年度の本格稼働に向けた仕組みの構築に取り組みました。

また、法人に設置する教育研修委員会や各事業所に設置する機能別・分野別委員会で研修計画を策定し実施しました。O n l i n e研修が定着しつつあります。一方、集合研修は事業所内開催がスタンダードになってきています。そのようななか、第11回学術運動交流集会は、初めてO n l i n eで開催しました。熱気を感じる集合形式には及びませんでした。運営面での工夫で、充実した有意義な研修とすることができました。

IX. 職員の状況

1. 職員の配置状況（2023年4月1日現在）

拠点・サービス区分		正規職員	非正規職員	常勤換算	平均年齢	平均勤続
法	人	4/1現在 72人 前年差 +0.0	115人 +20.0	151.6名 +4.7	49.8歳 +0.9	7.4年 -
こがねの里	本部	4/1現在 1人 前年差 -1.0	1人 +1.0	1.8名 +0.0	63.3歳 +1.0	17.2年 -
	入所	4/1現在 39人 前年差 -2.0	35人 +4.0	62.6名 +0.7	48.3歳 +1.7	8.0年 -
	地域密着通所	4/1現在 2人 前年差 -2.0	10人 +1.0	8.5名 -1.0	56.9歳 +1.3	7.5年 -
あこだ	通所介護	4/1現在 2人 前年差 +0.0	10人 -2.0	7.0名 -1.2	54.8歳 -2.3	5.5年 -
	居宅介護支援	4/1現在 3人 前年差 +0.0	1人 +0.0	3.8名 +0.0	54.6歳 +2.1	15.1年 -
小規模多機能		4/1現在 3人 前年差 +0.0	11人 +0.0	10.1名 +0.0	55.6歳 -1.5	8.5年 -
グループホーム		4/1現在 4人 前年差 +4.0	17人 +17.0	15.3名 +5.2	47.9歳 -	1.7年 -
有料ホーム		4/1現在 0人 前年差 +0.0	1人 -1.0	0.1名 -1.0	50.2歳 -6.3	0.8年 -
あかね	保育所	4/1現在 17人 前年差 +1.0	22人 +1.0	36.3名 +1.7	43.3歳 +0.5	8.6年 -
	子育て支援	4/1現在 0人 前年差 +0.0	5人 -1.0	3.1名 +0.3	48.0歳 -2.7	6.2年 -
企業委託保育		4/1現在 1人 前年差 +0.0	2人 +0.0	3.0名 +0.0	50.0歳 +1.0	6.6年 +1.4

※非正規職員には嘱託職員並びに派遣職員含む。

※端数処理により各部門内訳の計又は平均と法人合計又は平均が一致しない場合がある。

2. 職員採用・雇用管理等の状況

職員採用数（直接雇用）は34名（正規8名、非正規26名）、採用率は20.4%でした。オープニングスタッフ募集もあり、採用者数は前年度から2.6倍増加、採用率は+7.2ポイントとなりました。インターネット求人の閲覧状況の把握や掲載内容の工夫などに取り組みました。その結果、4月1日現在、直接雇用100%となりました。

離職者数は22名（正規職員6名、非正規職員16名）、離職率13.2%となりました。

年次有給休暇の平均付与日数14.5日（前年14.3日）に対し、平均取得日数11.4日（前年12.0日）で取得率78.8%（前年83.9%）でした。2022年6月1日現在の障がい者雇用の実雇用率は5.26%（前年4.27%）

でした。

年度	採用者数		退職者数		採用率	離職率	増減率		
	正規	非正規	正規	非正規					
2022年度	34名	8名	26名	22名	6名	16名	20.4%	13.2%	7.2%
前年度	13名	1名	12名	18名	3名	15名	7.6%	10.6%	▲3.0%
前年との差	21名	7名	14名	4名	3名	1名	12.8%	2.6%	10.2%

3. 職員配置計画の到達状況

2022年度の月平均常勤換算職員数は、計画148.8名に対して実績129.3名（増減△19.4名）となりました。介護職員は、グループホーム開設時期の繰下げによる影響が含まれます。保育士は、休業および児童数との調整もあり定数の約83.5%となりました。月の平均の常勤換算数による正規職員比率は55.0%と前年から1.3ポイント上昇しました。

表 職種別・雇用形態別の2021年度における月平均の常勤換算数および定数比較（増減）一覧

	月平均	増減	正規	増減	非正規	増減
法人	130.6名	△13.0	70.2名	△5.8	60.4名	△7.2
介護職員	56.1名	△10.4	33.0名	△2.8	23.1名	△6.3
介護補助員	4.6名	+0.0	1.2名	+0.2	3.4名	+1.0
保育士	27.0名	△5.3	12.3名	△2.1	14.7名	△3.3
看護・機能訓練	11.0名	△0.9	3.7名	+0.7	7.3名	△0.5
栄養・調理	4.3名	△1.4	1.9名	△0.1	2.4名	+0.1
相談員・ケアマネ	9.8名	△0.4	9.0名	△0.4	0.8名	+0.0
管理・事務・その他	16.5名	△1.0	9.9名	△0.6	6.6名	△0.3

※人数は、2022年度の一か月あたりの平均常勤換算数

※正規職員は、1ヶ月の所定労働時間なし以外の職員の常勤換算数である。

※非正規職員には派遣業務職員を含み、実労働時間を40時間で除している。

X. 許認可に関する事項（定款変更および指定変更）

区分	許認可年月日	指令書番号	主な内容
新規指定	2023年3月31日	奈良市指令福介福第155号	(介護予防)認知症対応型共同生活介護

異動区分	異動年月日	事業区分	異動項目
新規	2022年10月1日	介護老人福祉施設、(介護予防)短期入所、通所介護、地域密着型通所介護、小規模多機能型居宅介護、奈良市通所相当サービス	介護職員等ベースアップ支援加算
変更	2023年4月1日	(介護予防)認知症対応型共同生活介護の追加	業務管理体制届出

XI. 2021年度事業の状況

1. 評議員会、理事会に関する事項

開催回数 開催内容	開催年月日	出席者数			主な報告事項および決議事項
		評議員	理事	監事	
第12期第4回理事会	2022.5.27	—	12	2	<p>【決議・承認事項】</p> <p>①2021年度事業報告の承認</p> <p>②2021年度決算報告の承認</p> <p>③グループホームきたまちテラス等整備計画の一部変更の承認</p> <p>④グループホームきたまちテラス等整備にかかる資金計画についての承認</p> <p>⑤グループホームきたまちテラス等整備にかかる工事請負契約の締結</p> <p>⑥施設整備資金協力金償還および協力債の継続の承認</p> <p>⑦運用資金の積み立ての承認</p> <p>⑧駐車場賃貸借契約および整備工事業務委託契約の締結</p> <p>⑨雨漏れ補修工事業務委託契約の締結および施設整備積立金取崩の承認</p> <p>⑩電力売買契約更新拒絶に伴う最終保障供給契約の締結</p> <p>⑪2022年度夏季期末勤勉手当の支給基準</p> <p>⑫2021年度会計年度にかかる定時評議員会の目的事項の承認</p>

開催回数 開催内容	開催年月日	出席者数			主な報告事項および決議事項
		評議員	理事	監事	
第11期2022年度 定時評議員会	2022.6.26	9	6	2	【決議・承認事項】 ①2021年度計算書類および財産目録の承認
第12期第5回理 事会	2022.11.18	—	10	2	【決議・承認事項】 ①次期(第13期)役員体制(候補者推薦) について ②冬季期末勤勉手当および一時金支給基 準についての承認 ③金銭消費貸借契約の締結 ④人事労務・給与ソフトウェア購入の承認 ⑤介護用ソフトウェアのリプレースの承認 ⑥経理規定の一部改正の承認 ⑦労働法制等の改正に伴う諸規程改正 ⑧グループホームきたまちテラス什器・備 品購入の承認
第12期第6回理 事会	2023.3.17	—	8	2	【決議・承認事項】 ・2023年度の事業計画・収支予算の承認 ・定款の一部改正(評議員会への提 出議案)の承認 ・定款細則の一部改正 ・経理規程の一部改正 ・就業規則および給与規程の一部改正 ・グループホームきたまちテラス管理者 選任 ・管理監督者の解任 ・太陽光発電自家消費システム導入の承認 ・臨時評議員会の目的事項の決定 ・第13期役員候補推薦の承認
第12期理 事会 (決議みなし)	2023.3.31	—	—	—	【決議・承認事項】 ・貸借契約の締結 ・企業委託保育サービス契約の一部変更 ・企業委託保育サービス契約の一部変更
第11期評議員 会 (決議みなし)	2023.3.31	—	—	—	・定款の一部変更の承認 ・2023年度の理事報酬総額の決定 ・2023年度の監事報酬総額の決定

2. 評議員選任・解任委員会に関する事項

開催回数 開催内容	開催年月日	出席者数		主な報告事項および決議事項
		委員	理事	
開催なし				

3. 2021年会計年度分の監事監査の状況

- ◇監査日時 2022年5月23日
- ◇監査人 池田裕子、城孝至
- ◇改善事項 なし

4. 会計に関する専門家の活用状況

(1) 2021年会計年度の決算調査

- ◇監査日時 2022年5月10日
- ◇監査人公認会計士田中淑寛（協働公認会計士共同事務所）

(2) 2022年会計年度の上半期決算調査

- ◇監査日時 2022年11月30日
- ◇監査人公認会計士田中淑寛（協働公認会計士共同事務所）

5. 所轄庁からの報告徴収・検査等への対応状況

内容	日時	対象	要改善指摘事項	対応状況
令和4年度社会福祉法人及び社会福祉施設に対する指導監査	2022.10.4	秋篠茜会	評議員の決議について、特別の利害関係の確認を行い、その旨を議事録に記載すること	特別の利害の有無を議事録に記載、利害関係がある評議員があるときは議事録に当該評議員の氏名を記載する
			理事会の決議について、特別の利害関係の確認を行い、その旨を議事録に記載すること	特別の利害の有無を議事録に記載、利害関係がある理事があるときは議事録に当該理事の氏名を記載する
	2022.10.4	特別養護老人ホームこがねの里	なし	—
	2022.10.5	あかね保育園	なし	—
令和4年度介護保険施設等の集団指導	書面	介護保険全事業所		

6. 業務の適正、サービスの確保のための教育・研修実施状況

研修内容	開催年月日	参加数	備考
新入職員研修(春季)	2022.4.1	3名	オンライン
新入職員研修(秋季)	2022.10.3	11名	オンライン
新入職員研修(追加)	2023.3.3	4名	対面開催
新入職員研修(追加)	2023.3.30	8名	対面開催
三年目職員研修	2022.7.29	9名	法人理念・方針講義、接遇・マナー、グループワーク、職員教科書
五年目職員研修(前年度分)	2022.4.22	10名	法人理念・方針講義、接遇・マナー、グループワーク(職員教科書、コーチングとリーダーシップ等)
五年目職員研修	2023.1.27	6名	法人理念・方針講義、接遇・マナー、グループワーク(職員教科書、コーチングとリーダーシップ等)
職責者研修(第1回)	2022.8.16	22名	学習講演「憲法と社会保障～骨太方針2022と経済財政諮問会議答申について～」 講師：佛教大学 教授 岡崎祐司先生
職責者研修(第2回)	2022.11.15	23名	2022年度上半期事業報告
職責者研修(第3回)	2023.2.12	22名	学習講演「職場づくりにおける心理的安全性について」講師中部学院大学兼任講師 西川絹江 先生
全職員研修会議	2023.3.14	1名	2023年度事業計画・予算(案)検討
学術運動交流集会	2022.10.16	69名	学習講演「平和と命の尊厳を大切にする社会へー憲法9条を守りジェンダー平等を進めるためにー」 講師国際ジャーナリスト伊藤千尋氏

7. 苦情・相談内容、件数

第三者委員の助言と立会いを要する事例はありませんでした。苦情・相談件数は42件(前年39件)でした。申出の多くはご本人またはご家族等を通じた申出が全体の86%(前年82%)を占めています。苦情相談内容では、サービス内容が21件(前年20件)に関する内容が最多となりました。次いで説明・情報提供8件(前年9件)、ついで職員の接遇5件(前年6件)と続きます。

事業所別では、こがねの里が全体の8割を占めました。こがねの里の事例では在宅サービス利用者家族から、帰宅後の様子から必要なサービスがされていないのではないかとという内容が最も多く14件でした。本人の状態から実施できなかった場合、利用中の様子や理由を説明する事で納得されるケースもありました。その他、送迎中の駐車場所等による苦情が4件ありました。説明不足によるもの以外に、当該家族と地域との関わりに影響を受けたケースもありました。新型コロナウイルスの感染状況やワクチン接種

の進捗に関する苦情も家族や事業者からありました。

事業所	申出者					申出・苦情の内容							
	本人	保護者・家族	事業者等	地域住民	投書	サービス内容	職員の接遇	利用料	説明・情報提供	施設管理	被害・損害	権利侵害	その他
こがねの里	3	25	4	1	0	17	3		7	0	1	0	5
あかね保育園		1				1							
サイクルハウス	4					3			1				
あかりの家	2	1	1				2						2
計	9	27	5	1	0	21	5		8		1		7

8. 第三者評価、運営推進会議等の開催状況

(1) 運営推進会議開催状況

内容		開催日時	出席者数		議題、意見、要望	措置状況
			外部	事業		
小規模多機能型居宅介護	運営推進会議	2022.5.25	4	3	地域の諸活動への参加要請 顔のみえるつながり促進 2021年度事業外部評価について	感染状況踏まえ可能な限り参加 福祉農園を通じた協力
小規模多機能型居宅介護	運営推進会議	2022.7.27	3	3	・地域の諸活動への参加要請 ・2021年度事業外部評価の確認	・感染状況踏まえ可能な限り参加
小規模多機能型居宅介護	運営推進会議	2023.3.22	3	2	・認知症カフェ、子ども食堂の取り組み協力 ・外部評価自己点検	・参加、協力促進 ・自己点検・改善の取り組み進める

9. 事業の経過と概況

(1) 高齢者事業分野

- 利用者件数は 5,519 件で前年差異△129 件でした。短期入所の△121 件、通所サービス（2 事業）で△116 件によるものです。通所サービス（2 事業）は前々年からの 2 年間△215 件との事業活動に影響を及ぼす水準です。
- 延回数（日）は 56,632 回（日）前年差異+1,382 回（日）でした。特養ホーム、小規模多機能で延回数（日）に大きな進展がありました。

①高齢者事業総数

		4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	合計(平均)
件数 ^{※1}	件	1,395件	1,378件	1,387件	1,359件	5,519件
前年差異		△6件	△37件	△45件	△41件	△129件
延数 ^{※2}	回	14,551回	13,969回	14,146回	13,966回	56,632回
前年差異		+1,027	+128	+195	+32	+1,382

※1 件数に含む事業…高齢者全事業（特養ホーム、短期入所、通所サービス2事業、居宅介護支援事業、小規模多機能型居宅介護、高齢者住宅事業）※2 延数に含む事業…特養ホーム、短期入所、通所サービス2事業

②サービス種別の利用動態

サービス種別・項目		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	合計(平均)
特養・短期	件数	393件	383件	381件	379件	1,714件
	差異(前年)	△6	△37	△45	△41	△129
	延数	9,064日	9,137日	8,969日	8,920日	36,090日
	差異(計画)	±0	△27	△195	△45	△267
通所サービス	差異(前年)	+616	+388	+158	+21	+1,183
	延数	9,064日	9,137日	8,969日	8,920日	36,090日
	差異(計画)	±0	△27	△195	△45	△267
	延数	3,002回	2,681回	2,903回	2,822回	11,408回
居宅介護	差異(計画)	△638	△1,012	△684	△697	△3,031
	差異(前年)	+89	△438	△354	△59	△762
	件数	437件	443件	443件	448件	1,771件
	計画比	△1	+5	+5	+10	+19
小多機	前年比	+9	+6	+5	+29	+49
	件数	48件	43件	42件	45件	178件
	計画比	+6	+1	-3	±0	+4
	前年比	+6	+1	±0	+1	+8
有料ホーム	件数	30件	30件	30件	29件	119件
	計画比	±0	±0	±0	△1	△1
	前年比	±0	±0	±0	△1	△1

(2) 保育事業分野

- 保育事業分野では保育所・企業委託保育の年間利用件数 1,641 件でした。
- 延利用数は、感染の波が繰り返しによる件数減と利用児童数の減少傾向や、感染防止のための事前予約制の導入などの影響です。

	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	合計(平均)
件数※3 件	384件	395件	422件	440件	1,641件
差異(前年)	+2	△6	+1	+6	+3件
延数※4 人	8,498人	7,784人	8,665人	8,684人	33,631回
差異(前年)	+82	△575	△859	△201	△1,553

※3 件数…保育所、企業委託保育件数の合計

※4 延数…保育所、企業委託保育、子育て支援拠点事業の延回数合計

	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	合計(平均)
保育所 件数 件	371件	380件	410件	427件	1,588件
差異(計画)	△7	△26	△8	+7	△34
差異(前年)	+2	△7	+3	+7	+5

10. 社会福祉充実残額および社会福祉充実計画の策定状況

2022 年会計年度における社会福祉充実残額に残高が生じないことにより、社会福祉充実計画は策定していない。

11. 社会福祉事業の実施状況

(1) 入所部門として

地域に大きく還元されるべき施設として、年度当初から特養は実件数 89 件を基準とした受け入れ計画を立て実施できました。職員体制を一定数確保できた事や待機者管理の強化により、特養は退所から次期入所までの空床日数を改善し、計画達成する事ができました。ただ、ショートステイは受け入れ数の調整が必要な状況や新型コロナウイルス感染症の陽性者発生による受け入れ停止が必要な時期があり、目標未達成に影響を及ぼしました。

感染症流行下で、余暇活動等の取組は十分に行えませんでした。利用サービスに関わらず、入所中の生活を楽しめる機会を確保するために内容を検討し実施しました。安全管理委員会を中心に検討し、感染症に関する事業継続計画を作成しました。

(2) 特別養護老人ホーム

新規入所者 33 名（一般 31 名、優先 2 名）退所者 31 名（入院中死去 16 名、施設内死去 14 名、その他 1 名）でした。新規入所者の平均介護度は 4.03、入所後 2022 年度内に退所されたケースは 5 件となりました。自宅からの入所が最も多く 14 件、次いで老人保健施設からの入所が 11 件でした。リハビリへの意欲が高い傾向にあり、集団的なラジオ体操やレクリエーション、個別でも可能な範囲での生活リハビリも実施しましたが、定期的な実施は難しい現状です。

専門科の継続の必要性から入所以前からの医療機関に継続受診するケースが増えました。また、頻尿や尿閉等から泌尿器科への定期受診者が 15 名、内バルーン留置者は 9 名となっています。水分摂取量の少なさによる脱水の予防策を検討し、就寝前の水分補給を業務に位置付ける等、ケアの質向上を目指しました。また、浮腫等の症状出現も多くありますが、嘱託医からは、本人の年齢等から状態相当の症状であるとの所見を受け、本人の負担感を考慮しながら健康管理に努めています。

コロナ感染症対策では、クラスターが年 3 回ありましたが、その都度の教訓を活かし感染対策を行いま

した。ただ、短期間であっても限られた生活環境の中では、心身への影響は大きく、廃用性による ADL が低下した方が複数ありました。感染症対策ステージに基づき、必要以上に制限された生活にならないよう支援を検討し、家族との直接面会の機会も確保できる期間を設けることができました。また、長時間の密閉空間にならないよう近隣の外出や行事を行いました。

生活の様子や雰囲気を感じて頂けるよう定期的な報告やおたよりでの発信を行い、家族の不安感軽減に努めました。

(3) こがねの里ショートステイ

2022 年度新規利用者は 58 名（前年 39 名）と前年に比べて増加しましたが、計画には到達せず、短期間の利用ケースが増加しています。実件数も前年より少ない中でしたが、今まであまりケース紹介がなかった居宅新事業所とのつながりも増え、定期的な利用につながったケースもありました。特徴的なケースでは、主治医より看取り時期との診断を受け、家族の休息のためにショート利用する中で利用中に死去されたことがありました。事前に、主治医や家族と十分な意思疎通を図ったことで、混乱なく看取ることができました。一方で、経口摂取が難しくなり、吸引頻度の増加からサービス利用の継続が難しくなったケースや入院中に褥瘡が悪化し退院後の受け入れが難しくなったケースがありました。

7 月、12 月、2 月と利用中の利用者からコロナ陽性が判明し、一定期間受け入れを停止する事がありました。いずれも職員への感染はなく、早期に受け入れを再開する事ができました。ただ、いずれの月も陽性判明前に比べて日平均 2 名以上の落ち込みとなりました。

1 日あたりの受け入れ件数の制限をなくす事と短縮された時間で利用者の余暇やレクリエーションを確保する事が目的に、6 月より家族や関係事業所との合意ができたケースから入退所時の業務を簡素化しました。そのことにより、キャンセル待ちの解消や利用者の整容の充実、家族や事業所へのこまめな状態報告等を行う事ができました。

(4) こがねの里デイサービスセンター

実件数 617 件（前年比△59 件）月平均 51.4 名（前年比△4.9 名）累計平均 13.23 名（平均稼働率 73.5%）でした。新規利用者 39 名（前年比 10 名超）、利用停止 33 名（逝去 10 件、入所 7 件、入院 9 件、その他 8 件）となりました。新規利用者が例年に比べ大幅に増加しましたが、医療依存度が高く重度の利用者が多かった結果、逝去や入所、入院により利用停止となるケースも増加し、3 月度を除き、予算目標である 1 日利用者平均 15.0 名を達成することができませんでした。

年度当初は利用者の減少が顕著でありましたが、居宅介護支援事業所への定期的な営業訪問を続け、利用依頼を「断らない」、希望曜日や利用時間の柔軟な調整と対応が功を奏し下半期は徐々にサービス活動収益を回復することができました。

レクリエーションでは、担当職員を決め、新型コロナウイルス感染症対応ステージ表を基準に実施しました。調理レクは利用者には好評ですが、スイーツパーティのような企画を実施することができず、準備等の簡素化を検討します。外出企画では、感染状況に応じ、少人数で実施しました。施設内の畑では、一年を通じて季節、天候によって違う様子を楽しむことができました。誕生日には、写真入りの誕生日カードを作成したところ、ご家族に好評で自宅に飾られていることが多くありました。また、あかね保育園卒園児への記念品を制作レクとして作成、数少ない世代間交流の機会となりました。

(5) 介護予防サイクルハウス・あこだ

地域高齢者の在宅生活継続の願いを守るために、身体機能の低下予防・引きこもりの防止などへの支援を行うため、午前マシン・午後プールでの機能訓練を中心とした運営を行いました。経営課題である

利用率の改善を重点課題として、居宅・包括各事業所への営業や利用者へ日常生活動作改善への個別プログラムの提供や各種メニューの見直しを図りながら実践してきました。

また入浴サービスの導入を行いアピールを図りました。入浴サービスにおいては、新規にかかわらず、状態変化された利用者への提供ができることも強みとなりました。また軽度認知症高齢者の外出の機会等、通い場所の役割を認識し活動しました。しかしながら目標であった日平均利用者数 38 人

(午前マシン 20 人午後プール 18 人) 目標において、10 月時点で利用率 48%と到達できませんでした。とかくプールの利用枠(午後 2 単位目)は日平均利用者数 10.9 人と低迷を極めました。改善に向け、営業の強化、イベント企画などを検討しましたが、クラスターの発生により 9 営業日の休業など以降も結果につなげることができませんでした。12 月、この結果やプール設備の故障に伴う大規模修繕の発生、電気・ガスなどエネルギーコストの高騰も伴い、次年度プールサービスを継続することを断念しマシンサービスへ変更することを職場会議で検討しました。利用者等への衝撃は大きく、利用停止が 14 名に上りました。2 月から 4 月午後のマシンサービス利用者受け入れの案内に事業所を回りました。私たちの事業がなんのために、誰のためにあるのかを考え、実践してきましたが、残念な結果となってしまいました。そして次年度は引き継ぐことのできない課題と考えます。

(6) 小規模多機能ホームあかりの家

新規利用 4 件、停止は 4 件、3 月末時点で登録利用者は 15 名となっています。停止の内訳は、死去 2 件、特養入所 1 件、老健入所 1 件でした。平均介護度は 2.74 となっており昨年度と大きな差はありませんでした。登録利用者数は年間 174 件を目標にしました。年間で 178 件と目標に対して 4 件上回りました。

登録者の現状として宿泊を希望されるケースが増えており宿泊日程の調整や新規利用希望者の受け入れに対しても調整が必要な状態となりました。宿泊サービスが連続した背景として、入院により自宅での生活に戻ることに不安があり宿泊サービスを利用する、急な状態変化で自宅での生活が困難になった等が挙げられます。宿泊を継続されていた方でもケアマネジャーが中心となってサービス調整を行い、自事業所だけでなく訪問リハビリにも協力して頂き、自宅での生活に戻られた方もおられます。また、家族の状況に合わせて日中は自宅で過ごし、夕方から宿泊サービスを利用する等その方の状況に合わせたサービスの調整も行いました。

新型コロナの感染事例は職員、利用者ともに発生しました。感染発生の状況に合わせて通いサービスを訪問サービスに切り替えてサービスを提供する等対応を行いました。事業所内で感染が広まることはありませんでしたが、昨年度からの継続課題である事業継続計画の作成、研修の必要性を改めて感じました。運営推進会議は、感染状況に合わせて開催方法を検討しました。集合形式での開催は 4 回実施しました。法人、事業所の取り組みを報告するだけでなく、地域の方からの要望についても確認し、法人、事業所としてどのように関わっていくのかを考える機会となりました。

昨年度に続き、外部機関の研修会や学習会への参加が難しいこともあり、職員会議で内部学習会に取り組みました。職員それぞれがテーマを決め講師を担当しました。学習会後に意見交換をすることで日常のケアに結びつけて考えることができました。

実施日	研修内容	参加数	備考
4月23日	総括と事業計画の確認	9名	
6月29日	感染症対策学習会【手洗い・ガウンテクニック】	10名	
7月27日	熱中症と脱水	8名	
8月24日	事例検討会【看取り介護】	6名	
9月28日	高齢者虐待防止・身体拘束廃止	7名	
10月20日	アンガーマネジメント基礎研修	1名	外部研修
10月22日	認知症実践セミナー	1名	オンライン
10月26日	認知症の人とのコミュニケーション	9名	
11月23日	ユマニチュードで優しい介護を目指そう	9名	
12月28日	教科書学習【接遇】	9名	
1月25日	アンガーマネジメント	6名	
2月2・9日	看護師等に対する認知症対応力向上研修	2名	外部研修
2月22日	外部評価に向けて	9名	
3月29日	外部評価に向けて	8名	

(7) あかね保育園（保育所）

今年度も0歳児の入園希望が少なく、毎月の施設見学会、個別の問い合わせや見学にも丁寧に対応することで、少しずつ0歳児を獲得することができました。

コロナ禍3年目、新型コロナウイルスの感染予防に努め、環境を整えながら、日々の保育や行事等工夫を重ねました。保護者には、日常の保育のようすを定期的に動画で配信して子ども達の姿を見ていただきました。運動会やまつりは縮小しての取り組みとなりましたが、これまでの行事や保育を振り返り『子どもにとって』を考え深める良い機会となりました。職員体制では、産・育休に加えて病休、職員や職員家族のコロナ感染等で厳しい状況がありましたが、職員の協力で休園することなく運営を続けることができました。また、1・2月で2名の保育士を採用することができ、0歳児を受け入れることができました。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計・平均
0歳児（増減）	4	1	0	0	3	2	5	3	2	4	-1	0	23
0歳在籍	4	5	5	5	8	10	15	18	20	24	23	23	13.3
全園児	122	124	125	124	127	129	134	137	139	143	142	142	132.3

園児及び保護者支援では、日頃からコミュニケーションをとり、気軽に相談できる信頼関係づくりを大切にしました。個別に面談をし、丁寧な対応を重ね市の関係機関と連携し支援を行いました。資質向上の取り組みでは、オンラインでの研修を積極的に受けながら、今年度は奈良女子大学の狗巻先生を講師にお招きし、第1回『発達の概念』第2回『乳幼児の発達やコミュニケーション・認知の発達』について学ぶことができました。保育士全員で同じ研修を受けることで、発達について一定の方向性を持って、子どもの思いや行動について考えることができました。保育理念、

方針を見直し、『保育の10の基本（仮）』の具体化を進めました。個人ワークやグループワークを重ね、継続して取り組むことで職員一人一人の資質向上につながっています。防災の取り組みでは、研修で学びながら、防災関係の備蓄に努めました。市の補助金を利用して発電機を購入しました。施設整備で計画していた、ど

んぐり広場の階段工事は資材が調達できず、次年度へ繰り越しとなりました。

(8) 奈良市地域子育て支援センターPeace (地域子育て支援拠点事業)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	2021年
利用者総数	338	366	473	350	395	448	382	339	316	373	372	378	4,530	5,585
子ども	182	200	253	185	206	231	200	177	169	199	194	197	2,393	3,032
保護者	156	166	220	165	189	217	182	162	147	174	178	181	2,137	2,553
開所日数	21	20	21	21	21	20	21	20	20	19	18	21	243	245
										一日平均			18.6	22.8

6組の定員、90分制限の3部制で、予約しての利用を一年間続けてきました。予約が全くない時間帯もあり、昨年度より更に利用者は減りました。利用の年齢で一番多いのは、1歳児(38.7%)続いて0歳児(34.5%)でした。利用者の校区は、平城(40.57%)、伏見(40.59%)で、1人の差でした。残りの20%は、それ以外の校区から来られている方たちでした。

*子育て支援に関する講習

今年度は、講習の実施の制限はなく、計画していた講習はほぼすべて実施することが出来ました。実施前に市役所に事前協議書を提出し、許可が下りたら実施という形をとっていました。室内で行う講習「Peaceの魔法」では、離乳食講座・季節の製作・市の職員による講習・Peaceスタッフによるベビーマッサージやリトミック・クリスマス会・人形劇等を実施しました。

戸外で行う講習「わくわくPeace」では、公園遊び・お花見・水遊び・ミニ運動会・どんぐり拾い・初詣等を実施しました。5月からは、スタッフによる「えほんひろば」を毎月1回実施しています。他には、園庭開放や避難訓練も行いました。6月から、妊娠期の方対象に、「プレママ・プレパパのための見学会」も始めました。

これまで3組のご夫婦の参加があり、Peace内や、利用者親子の様子を見たり、さらに希望された方にはあかね保育園内も見学してもらいました。講習の内容等の希望を利用者にGoogleホームのアンケートで聞いてみたところ、希望は沢山出ていましたが、それが参加には反映されず、募集人数には満たずに苦戦することが多かったです。講習の様子は、ホームページで発信し、お知らせしています。地域の子育て支援団体への支援は、子育てサークル「ばんび」へ2回出張講座に出向きました。残念ながら、今年度で活動が最後ということで、出張は2月で終了となりました。子育てスポット「ミルクハートミルク」への年2回の出張講座は、また引き続き行かせてもらいます。

*一時預かり「ひよこルーム」

週4日実施しました。5月が0件で、毎年利用が多い3月も3件の利用しかなく、昨年度よりも56件減少し、時間も79時間減少しました。利用の理由は、病院受診や使用の買い物、リフレッシュ等です。

*子育てコーディネーター事業(利用者支援事業)

週3日(月・火・金曜日)に、利用者支援(子育て家庭等からの相談、情報提供等)と地域連携(地域の関係機関との連絡調整、連携・協働の体制づくり等)を行いました。利用者支援は、発育・発達支援や深刻な相談ケース等を報告しています。1年間で、201件の相談を受けました。

*こんにちは赤ちゃん訪問事業

2019 年度から奈良市子育て相談課から受託した事業です。今年度から保育士 2 名も 加わり、訪問活動を行いました。Peace 周辺の家庭を訪問しています。訪問後に Peace を利用されることもありました。コロナ禍で短時間の訪問の為、事前聞き取りをし、玄関訪問等を行っています。

1 2. 公益事業の実施状況

(1) 居宅介護支援事業（ケアプラン作成）

2022 年度居宅支援事業は施設サービスの敬遠による利用者増、認定更新の延長に伴う要介護者の増加などコロナ特需であり予算を超過達成しました。共同組織との運動においては民医連の委員会活動に加え、自治体キャラバンにおける奈良市との各課交渉に他法人とともに参加して協議を継続し、圏域包括のネットワーク会議を通して地域課題の抽出と提言に努めています。

他方実践では数年来コロナの波に翻弄され続け、感染ピーク時には家族介護に頼らざるを得ない現状があります。介護保険制度そのものは社会に周知されたといえますが、度重なる改定で細かな制約が多く複雑な仕組みとなり利用者負担の増大もあって、家庭内で限界まで介護してから相談依頼が舞い込む事例が多くなりました。病状などの変化により生活状況を変更せざるを得ない場合も、現状維持以上の課題解決は先送りとなりがちです。K.P 不在の単身者も増え住み替えなどの支援も介護支援専門員が担わざるを得ません。

介護計画に位置付ける支援の内容については、根拠とともにいかに自立支援に資するかという点が厳しく問われるようになりました。記録の精度を上げるとともにデジタル化への対応にも引き続き取り組んでいきます。

(2) 企業委託型保育事業

今年度は 1 歳児と 2 歳児の待機児童の日勤帯利用があり同年齢児集団の中での保育を保障しました。1 歳児については、あかね保育園で急な退園があり、保護者への情報提供と手続きを進めることで、10 月よりあかね保育園への入園が決まりました。日・祝日保育は 5 歳児 2 名と 3 歳児 1 名が利用、泊り保育は月 5 回、5・4・3 歳児の 3 名でスタートしましたが、保護者の退職により、9 月からは 2 名の利用でした。安心して利用できるように、保育のようすをポスターにして掲示し、お便りも発行しました。

怪我や病気で職員が出勤できない状況もありましたが、職員の協力でスムーズに運営することができました。院内交流集会の実行委員会に参加し、当日の Web 研修には担当職員 3 名が参加し、講演や他園の報告を聞き意見を出し合い交流を深めました。地震や火事、不審者など様々な状況を想定して避難訓練を行いました。

(3) 在宅型有料老人ホーム事業

2022 年度開始から 10 人満室で経過しましたが、2 月に退去者 1 名の発生により、9 名在籍となりました。安否確認の訪問の際に状態変化を確認し、併設ケアマネジメントやこがねの里高齢者サービスとの連携により緊急対応ができました。その他入居者は、高齢化が進んでいますが、大きな状態変化もなく、感染症の発生事例もなく、穏やかに暮らされました。

外部から生活支援サービスを利用されている入居者や自立高齢者が育を掛け合い、時に励ましあって生活されました。空室における、入居者募集に関しては、近隣関係団体の協力を得て募集チラシの配布

を行わせていただくことができ、問い合わせや見学対応を行いました。その他インターネットでの広告掲載を行いました。早期に新たな入居者との契約締結が課題です。また入居者が安心して、自分らしく生活ができるよう、次年度においても引き続き法人高齢者事業との連携を再確認しました。

1 3. 地域における公益的な取組・活動等の状況

(1) 社会福祉法人減免、低所得者への法人独自減免の実施状況

利用料減免の状況は社会福祉法人減免制度および一定の基準による法人独自の減免を行いました。法人独自の減免対象利用料は、①特養・ショートステイの食費・居住費、②地域密着通所サービスの食費、③小規模多機能居宅介護の食費・宿泊費です。

利用料減免実施状況は延 336 件（前年差△11 件）に対し減免総額 4,058,810 円（前年差△326,047 円）でした。減免額のうち社会福祉法人減免制度による減免額が全体の 84.6%（前年 85.5%）を占めました。

	2022 年度		前年度		増減	
	延件数	減免総額	延件数	減免総額	延件数	減免総額
法人合計	336 件	4,058,810 円	347 件	4,384,857 円	△11	△326,047 円
特養ホーム	223 件	3,537,595 円	211 件	3,658,787 円	+12	△121,192 円
ショート	55 件	396,965 円	73 件	564,445 円	△22	△167,480 円
地密通所	58 件	124,250 円	62 件	161,625 円	△4	△37,375 円

※上記は、当初の介護報酬請求額から集計しているため、利用者負担軽減額と一致しない場合があります。

(2) ボランティア組織の活動状況

2022 年度も新型コロナウイルス感染症予防のため、利用者と接触する活動の休止を継続しました。活動回数は 124 回（前年 112 回から+12 回）、延人数は 259130 人（前年 130 人から+129 人）となりました。

洗濯物担当の活動再開の方が 2 名から 4 名に増え、環境整備 1 名の方が新規登録され、活動回数、延べ人数とも増加につながりました。4 月、8 月、9 月、1 月は感染事案発生のため施設内の活動を休止し、自宅での活動のみとなりました。

再開時期や地域の公民館での活動の検討をしましたが、こがねの里へ来訪する形での活動の希望が強くボランティア室と環境整備の活動が中心となりました。

環境整備では車いす清掃も再開し、秋に実施していただきました。毎月ボランティアニュースとこがねの里だよりを発行、名札付けや捨て布作りの活動材料をボランティアさんの自宅へ届けさせていただき、ボランティアさんへの訪問と電話での近況報告や情報交流等を継続しました。

今年度も新規のボランティア活動登録の相談や問い合わせが数件ありましたが、登録には至っておりません。

(3) その他活動

受け入れ実習種別	学校・実施機関	期間	人数
介護実習	奈良歯科衛生士専門学校	6/13～6/15、6/20～6/22、 6/27～6/29	12 名
	関西福祉科学大学（60 時間）	8/8～8/18	3 名

社会福祉士実習	関西福祉科学大学 (180 時間)	8/29~9/30	1 名
	龍谷大学 (180 時間)	11/1~12/5	1 名
	大原学園 (180 時間)	2/6~2/19、3/6~3/18	1 名
保育士実習	帝塚山大学	8/22~9/16	1 名
	奈良佐保短期大学	9/5~9/16、12/5~1/4	2 名
21 名			

